

昨年から手編みニットがトレンドになっていますが、それを決定的にしそうなのがイギリスのトーマス・デーリー(27)です。東京オリンピックにおいて、飛び込み男子・シンクロ高飛び込みで金メダルに輝きました。メダル獲得の翌日、英国旗と日の丸がりバーシブル柄になった手編みの金メダルケースをSNSで披露し、ファンを再び熱狂させました。

応援席でもせつせと編み物に励んでいる姿が目撃され、それは犬のセーターになったり、「東京」という文字入りのカーディガンになったりしてSNSに投稿されました。編み物を始めたのは新型コロナウイルスのロックダウン(都市封鎖)の直後。競技の上でも、編み物は大きな精神的助けになったと自身のインスタグラムでコメントしています。

五輪後、イギリスのファッションECサイトでは、「ニット」

Style アイコン

【トーマス・デーリー】

編み物の腕前も金メダル級



(インスタグラムから)

で、アカデミー賞脚本賞を受賞したこともあるアメリカ人の脚本家、ダスティン・ランズ・ブラックとの関係を公にします。「タイムズ」の慶弔欄で2人は婚約を発表し、17年に結婚。翌年、代理母出産で第1子をもっています。

デーリーはユーチューバーとしても活動しており、東京オリンピックの選手村の様子を動画で紹介していました。金メダル獲得の瞬間、選手村のテレビの前で、仲間たちと一緒に喜びで絶叫するブラックの姿も世界に配信されました。編み物の腕前も金メダル級なら、SNSの使い方センスも抜群です。

アスリートは厳格に競技のみに専心すべしという時代は過去のもの。編み物に熱中し、自分に正直に生き、楽しいことを自在に表現する。人生を全方向で満喫する喜びを競技にかすと、という姿勢を世界に示している、新時代のアスリートです。

「クロシェ」(かぎ針編み)製品の検索が89%増加したとのこと。インスタグラムだけで147万人ものフォローをもつデーリーの効果は小さくないでしょう。

デーリーは7歳の時に飛び込みを始めました。14歳でオリンピックに初出場し、テレビタレントとしても活躍しています。一方、LGBTQ(性的少数者)のアイコンでもあります。2013年に男性との交際を方ミンクアウト。翌年、20歳年上

(敬称略)
(エッセイスト 中野香織)